
プロジェクト 金利指標改革に起因する会計上の論点**項目 第 409 回企業会計基準委員会で聞かれた意見**

本資料の目的

1. 本資料は、第 409 回企業会計基準委員会（2019 年 5 月 28 日開催）において審議した項目について、聞かれた主な意見をまとめたものである。

IASB 公開草案に対するコメント案**(第 409 回企業会計基準委員会)**

2. コメント案第 2 項の会計基準の役割に関する記載については、会計基準設定主体である ASBJ のコメントとしては理解できるが、一方、財務諸表作成者の立場からは、会計ルールに基づいて取引の内容を決めるという実態があるという点は事実として共有させていただきたい。したがって、コメント案第 5 項の記載について、金利指標改革の全容がすべて判明してから会計基準開発を行うということではなく、両者は同時並行的に行われることが望ましいと考えられる。
3. 今回の公開草案に関しては、金利系デリバティブが主な対象であり救済措置による悪用がしばらくと考えられること、また、一時的な救済であることから、ある程度緩和的な内容でも問題ないと考えられる。したがって公開草案の内容に反対しないというスタンスについて同意する。

一方、公開草案では当該救済措置は強制適用とされているが、本来ヘッジ会計を中止とすべきものについても強制適用により継続される可能性もあるため、強制適用としてよいか現時点では懐疑的である。

また、コメント案第 2 項の記載について、ASBJ の中期運営方針に示されている、会計基準に係る基本的な考え方の 1 つとしての企業経営に規律をもたらすものという記載との関係が不明確でもあり、本記載はコメント案の文脈において必ずしも必要な表現ではないとも考えられるため、削除しても良いのではないかと。

4. コメント案の基本的な方針について賛成である。会計基準上で何ら手当てがなされないと、金利指標改革により何かしらの企業行動が誘発され、ひいては資本市場の混乱につながりかねないため、IASB の提案は、これを回避するための緊急的な対応だと理解している。コメント期間 45 日間で議論するには難しい問題だが、緊急性がある中、IASB としても最善の対応ではない可能性があるが、そういった事情を鑑

みた ASBJ の対応については、財務諸表利用者の立場からも支持できる。

5. コメント案第 3 項や第 5 項の考え方については賛成である。それらを踏まえると、第 4 項の「反対はしない」というニュアンスについては、もう少し積極的な記載でも良いように思われる。
6. コメント案第 3 項の「不健全な会計処理につながりかねない」という点は、Phase 2 についての言及だと理解しており、金利指標改革の全容がわからないからこそ、まずは Phase 1 の対応を IASB は行っているものだと考えている。そうであれば、コメント案のパラグラフの構成を見直した方が良いと思われる。
7. コメント案の全体的な方向性については賛成である。ただし、本公開草案に対する ASBJ のコメントが、日本基準適用企業の行動に対する示唆としてどのように受け止められるかについては気になる点である。
8. 全体的な方向性について異論はない。一方、本公開草案が最終化され適用されるタイミングについては、企業行動に影響を与える可能性があるため、早すぎず遅すぎず、最適なタイミングがあるのかどうか、そのような観点からのコメントを検討することも考えられる。

以 上